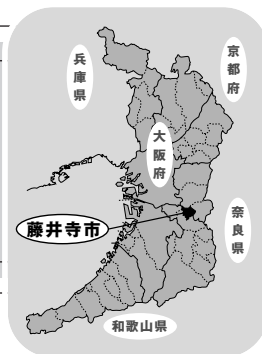


わたしのまちのPR

藤井寺市編



藤井寺市は、大阪平野の南東部に位置し、北部を大和川、東部を石川が流れており、金剛・二上・生駒の山並みを望む風光明媚な土地柄で、大小の古墳や国宝、重要文化財などの歴史遺産を豊富に有しています。また、大阪と奈良を結ぶルート上にあることから、古くから交通の要衝として栄えてきました。市域面積が8.89k㎡という大阪府内で最も小さい市で、昭和41年に府内27番目の市として市制施行しました。

この藤井寺市の特徴や強みといった事について、総務部秘書室長兼企画課長の林さんにお話をお聞きしてきました。



本日はどうぞよろしくお願ひします。

早速ですが、藤井寺市では、今、市をあげて「遣唐留学生 ^{いのまなり}井真成」をPRされていますね。この辺りのお話から教えていただけますか。

よろしくお願ひします。

そのとおりです。近鉄バファローズ（現オリックスバファローズ）の本拠地が、大阪ドームへ移転し、藤井寺球場が取り壊された今、藤井寺の新たなシンボルとして、井真成を全国に情報発信しています。

井真成は、この地の出身とされ、717年、19歳で遣唐使の一員として阿倍仲麻呂、吉備真備らと共に唐に渡り、36歳の若さで亡くなりました。平成16年、この井真成の墓誌が中国で発見されました。墓誌とはその人の略歴や功績などを石に刻んでお墓に埋めるもので、発見された墓誌には「身体は異国に埋葬されるが、魂は故郷に帰る事を切に願う」という旨の言葉が記されていました。井真成の無念さを

思うと、せめて墓誌とともに彼の魂を日本に、故郷とされる藤井寺に帰してあげたい、そんな思いが市民の間で広がり、昨年12月、1270年の時を経て墓誌の里帰りが実現しました。

里帰りの際は、市民らで組織された実行委員会の企画で、墓誌特別展が開催され、墓誌里帰りパレードや、移動パネル展など様々なイベントが盛大に行われました。

その後、墓誌は中国へ戻されましたが、市から中国にレプリカを製作させてほしいと働きかけ、この度、それに応える形で中国からレプリカが贈呈されました。

この時にも墓誌レプリカ歓迎イベントが行われ、レプリカを子どもたちが引く牛車ぎっしゃに乗せて、市内の商店街や駅周辺をパレードしました。

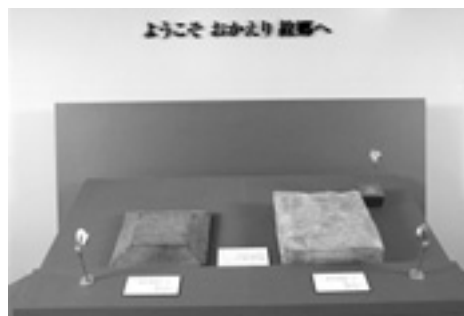
墓誌のレプリカは、現在、一般展示しており、市では井真成を市のシンボルとして活用していきます。

なお、余談になりますが、墓誌には「国号日本」

井真成里帰りパレード



井真成墓誌レプリカ



と刻まれており、現存する「日本」の文字としては最も古いといわれ、貴重な発見となりました。

なるほど。井真成の思いが伝わってきます。新しいシンボルとして期待されますね。

ちなみに、藤井寺球場跡はどのような再利用が行われるのですか。

藤井寺市の名前を一躍全国に広めたのはなんと言っても近鉄バファローズと、藤井寺球場です。球団が大阪ドームに移転してからは、高校野球を中心に活用していましたが、昨年、惜しまれながら閉鎖されました。

この時、市民主体の実行委員会が組織され、本市の主要イベントである「しゅらまつり」と市民運動会を藤井寺球場で「さよなら藤井寺球場 市民フェスタ」として合同開催し、7万人を超える方々が最後のお別れに来場されました。

球場跡地には、民間小学校などの教育施設が建設される予定です。周辺には高等学校や短期大学もあり、この地域一体を新たな教育・文化空間として、藤井寺市の発展につなげられればと思います。

さよなら藤井寺球場市民フェスタ



一時代が終わった感じで、寂しい気持ちもありますが、未来に向かって新たな発展を目指すことが大切です。

ところで、今の話の中で、しゅらまつりという言葉が出てきましたが、藤井寺は修羅が有名ですね。この修羅について、教えてください。

修羅は大木などを運搬する木ゾリのことで、昭和53年、本市の三ツ塚古墳から発掘され、「巨石運んだ木ゾリ発掘～世紀のダンプカー～」と、修羅出土のニュースは全国的に報道されました。

現地説明会には、全国から12,000人もの見学者が

修羅



〔大阪府教育委員会 提供〕

詰めかけ、まさに空前絶後の説明会になりました。

修羅は考古学ファン以外にも全国の人々の注目を浴び、平成2年に大阪で開催された「国際花と緑の博覧会」にも展示され、世界中の人々に紹介されました。8.8mに及ぶ巨大修羅を含む大小2基と、1本のテコ棒の実物の出土によって、これまで記録だけで知られていた修羅の存在が実証されることになりました。現在、小型の修羅は、市立図書館の展示コーナーで見ることができ、大型「修羅」とテコ棒は、府立近つ飛鳥博物館に展示されています。

修羅は各地で発見されていますが、藤井寺から出土した修羅は、古墳時代にすでに修羅による巨石運搬の技術が実用化されていたことを証明したことで、他とは異なる価値を持つものだといわれています。

なるほど。古代の歴史ロマンを感じますね。

このほか藤井寺市には歴史遺産を活用した建物などがあると聞いていますが。

そのとおりで、本市には歴史遺産を取り入れた公共施設がいくつかあります。一番目立つのは、アイセルシュラホールです。このホールは、平成6年に生涯学習センターとして建築されました。船形埴輪と修羅をイメージしたデザインになっており、一目

アイセルシュラホール



見ていただければ、忘れられない強烈なインパクトのある建物です。施設内は、家族そろって藤井寺市の歴史や文化などが楽しく学習できるようになっています。また、先程の井真成のレプリカはこのホールに常設展示されています。

この他にも前方後円墳をイメージした図書館や、円筒埴輪を連想させる外壁を持つ保健所があります。また、藤井寺市の市章は、市内の国府遺跡から出土した縄文時代の耳飾りと前方後円墳をモチーフにしています。

歴史遺産を大切にしておられるのがよく分かりますね。

ところで、藤井寺市の名所などを紹介していただけますか。

本市には、古市古墳群をはじめ、^{ふじいでら どうみょうじ} 藤井寺や道明寺、道明寺天満宮など数多くの名所があります。

中でも道明寺天満宮は、学問の神様として有名な菅原道真^{すがわらのみちざね}を主神としており、青白磁円硯^{せいぱくじえんけん}と呼ばれる硯^{すずり}や銀装革帯^{ぎんそうかくたい}という帯など、国宝である道真の遺品6点を保存する全国でも数少ない天満宮です。境内には80種800本の梅が植えられた梅園があり、毎年2～3月の梅まつりには大勢の参拝客で賑わいます。

道明寺天満宮



青白磁円硯



銀装革帯



梅の花が咲き誇る壮大なイメージが浮かびます。次に、最近、市で積極的に進めている取組につ

いてお聞かせください。

本市では、今年4月より市役所内における窓口対応を一層充実させる取組を始めました。

具体的な内容については、窓口部門の職員配置の見直し、相談用ローカウンターの増設をはじめ、子ども連れの来庁者が、子どもの様子を気にせず、安心して申請や届出手続などを行えるように、チャイルドカートを設置したほか、万一の状況を想定し、早急な救命措置ができるAED（自動体外式除細動器）を市役所庁舎や各中学校など市内関連施設に配置しました。

チャイルドカートやAEDの一部は、市内の事業所や関係団体から寄贈されたものです。

今後も窓口サービスの向上と安心して利用できる市役所づくりに取組んでいきたいと思っています。

チャイルドカート



また、本市には、市立藤井寺市民病院がありますが、老朽化・狭隘化が進んでおり、今後のあり方が課題となっていました。そのような中、市民懇談会の開催や、総合計画策定に向けた市民アンケートを実施したところ、市民からの強い要望があり、平成21年度中の完成を目標に病院の建替えを行うことといたしました。

今回の建替えにあたっては、平成16年12月にまとめられた「市立藤井寺市民病院施設整備マスタープラン」に基づき、これまで担ってきた機能の充実と、地域の

新病院イメージ図



中核病院としての診療機能の強化を目指しています。

また、大規模災害時には、地域の医療救援活動の拠点となるよう免震構造の採用などの災害対策や、今後の急速な医療情報技術の進歩への対応にも配慮した計画としています。

市民との協働によるまちづくりが活発だとお聞きしましたが、どのような取組がありますか。

本市では、先程お話しした藤井寺球場のイベントをはじめ、市民まつり、緑化フェスティバル、市民総合体育大会など、市の主なイベントについては、市民関係団体による実行委員会形式での企画、運営で実施されています。

また、近年、全国各地で大規模な地震や台風などが継続的に発生し、多くの被害が続いていますが、本市では、こうした災害での教訓を風化させず、災害に強い都市基盤の整備や非常時の防災体制づくりなど、「災害に強いまちづくり人づくり」に積極的に取り組んでいます。

こうした中で、平成13年に、災害発生時に、自力での避難が困難と考えられる高齢者や障害者の安否確認と避難誘導などを行う体制を整備するため、行政、防災関係機関をはじめ、福祉関係団体や区長会、郵便局などの参画を得て、全国的にも先駆けた取組として、地域ぐるみの「安否確認支援制度」を創設しました。

また、全国各地で子どもたちを対象とした凶悪な事件が発生する中、市民・行政・関係機関が連携し、学校安全シンポジウムの開催をはじめ、子ども110番の家の増設や、安全見守り活動の強化など、地域全体で子どもたちの安全確保に取り組んでいます。

これらのほかにも各地区の高齢者自らが企画・活動するための支援として、生きがいや健康、友達づくりなどに役立つものをメニュー化し、地区からの希望により、市職員や関係機関が出向いて講座等を実施する「百歳まで生きよう運動」、市内7つ全ての小学校区単位に、地域住民が主体となった福祉委員会を設置し、社会福祉協議会等と連携しながら、地域ぐるみで支え合い活動を展開する「小地域ネットワーク活動」など様々な協働による取組が盛んに行われています。

市民が積極的に参加されている様子が伺えます。他に、市が力を入れている取組があれば教えてください。

今年、藤井寺市は市制施行40周年を迎えます。この記念すべき年に40周年記念事業を行う予定です。

主な内容は、11月5日に市民総合会館（パープルホール）において、市民や関係団体の参加を得ながら、藤井寺市の歩みを振り返るとともに、例年の市民表彰にあわせ、これまでの藤井寺市の発展に貢献された方々への感謝状の贈呈を行う記念式典などです。この式典では、大阪芸術大学の協力など、官・民・学が協働し井真成を題材にした市民参加のアトラクションも実施する予定です。

また、藤井寺市になって40年の歩みを取りまとめた記念誌を発行します。この記念誌を作成するにあたり、市の過去、現在、未来の姿をはじめ、市民の藤井寺市に対する熱い想いを募集し、多くの作品や懐かしい写真などを頂きました。

なお、市制施行40周年を記念し、今年度実施する既存の事業や行事などの開催にあたっては、市制施行40周年記念という冠を付け、市民への浸透も図っています。

市民の熱い思いが伝わってきます。

それでは、最後に今後の市の方向性などをお聞かせください。

平成18年度から、第四次藤井寺市総合計画がスタートし、市の将来像を「安全・安心と歴史を未来に引き継ぐまち 藤井寺」と定め、地域とともに創り・育み・歩むまちを目指すこととしています。

豊かな歴史文化遺産の集積や、福祉・防災・防犯・環境対策をはじめとする地域活動が活発な本市の特色を活かし、市民が誇りと愛着を持てる「藤井寺らしさ」の充実・強化を図るとともに、市民や事業者が、まちづくりに積極的に参画できるような新たな仕組みづくり・人づくりにも取り組んでいきたいと思っております。

井真成効果などで、地域での盛り上がりを感じられます。市制施行40周年を機に、更なる発展を遂げられることを期待しております。本日はありがとうございました。